

「家族」はこわい 斎藤 学 (さとる)
まだ間にあう父親のあり方講座

- 父親が、子どもに限界を設定しなければならない。親は試されていることに気付かなければならない。

たとえ子どもが嫌だと言っても、夫婦仲が悪くても、父親は母親を支持しなくてははいけません。だいたい妻が子に限界設定していると、ムカッとくる父親がいますが、こういう人は子どもの頃、母親から自分の欲求や考えていることを認めてもらえず育てられた人で、妻が今度は自分の子に限界設定をしていると、怒りが出てきて反抗したくなってしまうのです。

では、きちんと限界設定されないで育った子どもはどうなるのか。彼らはまず、親に挑戦するようになります。どこまでやったら親はダメと言うか、どこまでやったら殴るのか、それを試すようにどんどんエスカレートしていきます。そして、親の面子を失わされた親が追い詰められ暴力的になると、子はそれこそ「限界」を知るのではなく、「親の限界」を見てしまった気になります。そしてこんな親はダメだと思い、いくら殴られてもこんな親には服従できない、親ってこんなものかと親を打ち負かした感覚になります。

その次には、限界を設定してくれる幻想の「親」を求めて、社会に挑戦するようになるでしょう。これを懲罰願望と言いますが、たとえば万引き、かつあげ、目に見えるいじめといった反社会的な行動に走ります。いわば非行ですが、わたしに言わせれば、非行なんていうのは親を求める行動だということです。その意味からも小さい頃から限界は与えてやらなくてはならず、この限界を与えるのは特に「父親」だと、わたしは思っています。

- 父親として、いじめられた息子を何とかしてやらねばと思い、いじめっ子と和解させるのだが……。

三人目は、子どもがいじめられ自殺してしまった父親です。多くの場合、子どもは当然元気にやっているとっていて、その幻想が打ち砕かれるまで、子どもの存在があまり目に入っていなかったという意味で、このタイプが現代の普通の父親に一番近いと言えます。事件が起こった後で、いったい何が起きたのか、何がこういうところまで事態を進ませてしまったのかを深刻に考え、探索して歩く悲劇の父親ですが、私が一番印象に残っている父親は、子の自殺の少し前にいじめに気がつき、いじめっ子と呼んで、息子と二人に握手させ、和解を図ったという父親です。この「和解」の直後に、息子は自殺してしまうのです。

(略)

この父親は、勝者と敗者の握手という演出で世の中を渡れると思っていた節があります。ビジネスの世界ではあり得ないことですが、家族単位の社会では成り立つと思込んでしまったようです。なにより彼には敗者がどんなに辛いものなのかという視点が欠落しています。

そもそも両者を握手させるというのは、人間間の争いの調停者をやるということですが、それは自分が神になっているということで、そんなことは無理だというのがこのお父さんにはわかっていません。このわからなさ子どもにとっては絶望的で、握手が実際の学校生活の中でどんな反応を呼ぶか、子どものほうにははっきり見えていて、お父さんには見えていない。これもまた、子どもにとって絶望的なことだったでしょう。

いじめられっ子は、いじめを偶発的な出来事として受け止めようとします。そうすることで、自分の価値、「生きていてもいいのだという価値」を必死で守っているのです。そうした子どもが、父親によって「いじめられっ子」であると宣言されてしまうと、あとは死ぬほかないでしょう。

- 著者は、「日本の男たちは根本的に育っていない、未成熟なのです」と言い切る。

そもそも家族をもった以上、もったはずの妻が誰かに寝とられるとか、自分を捨てて出ていってしまうという恐怖をいつももっていないと、成熟した男とは言えないというのがわたしの考えです。つまり、日本の男たちは根本的に育っていない、未成熟なのです。ここからさまざまな問題が起きています。帰宅恐怖症も、マザコンも、セックスレスも、ワーカホリックも、結局はこの未成熟からの問題です。

(略)

結局、日本の男と女にとって、結婚とはなんだろうかということです。結婚は経済力を夫が保持して、代わりに母なる子宮を手に入れるというやりくりなのです。経済力を握られてしまった女のほうは、なぜ握られたかということ、子どもがいるからということに尽きます。

それを言ったらおしまいの問題なのですが、女を経済力で買っているのです。ある程度それを認めているというか、双方そのことは了解しているみたいなどころで多くの結婚は成り立っています。だからこそ、女性の経済力が高くなっている社会では離婚は増えます。結婚制度が、男のものだからです。女にとって、結婚はそんなにいいことはないと思うのです。実際に、経済的な意味を除けば、妻の立場で、本当の意味で夫を必要としている人というのは少ないのではないのでしょうか。